



はじめに

10月31日(火)～11月2日(木)、つくば国際会議場で開かれる公式会議まで、あと1カ月です。3カ国で着々と準備が進められています。

現在の日中韓で行われているWHO非公式会議は、草案作成のための会議です。当然、361の部位が決定しているわけではありません。3カ国で意見をまとめ、統一した経穴部位の草案を作成しているわけです。この過去3年近い討論の詳細を記録として残しておくことも「経穴学」を学ぶ人にとっては有益なことではないかと考えています。

これを書籍として配布していった場合、当然、委員会としての出版費用、購買者の出費が伴います。それが大きな足かせとなり国際標準経穴部位の普及につながらないとしたら今までの努力が報われません。

そこで、情報交換の場としてホームページを立ち上げました。アドレスは、<http://point.umin.jp>です。みなさまのアクセスをお待ちしております。

ホームページ紹介

簡単に内容を紹介いたします。

1. 第二次日本経穴委員会

- ・ 経穴国際標準化の意義 (形井)
- ・ 作業部会の紹介
- ・ 作業部会の歩み
- ・ 活動報告 (坂口)
- ・ 雑誌報告など
- ・ 学会報告 (坂口、河原、浦山、形井)
- ・ photo (第1回から第6回会議)
- ・ 【資料】 第一次経穴委員会の歩み (矢野)
- ・ 【掲示板】 問い合わせ、質問

2. 361穴草案

- ・ 基本原則
- ・ 骨度図版
- ・ 361穴 (日本語草案)
- ・ 英語草案
- ・ 中国語草案
- ・ 保留穴6穴の一覧と解説
- ・ 追加7穴の一覧と解説
(現行日本の教科書は354穴)
- ・ 改訂41穴についての一覧と解説と根拠
(現行日本の教科書と異なる経穴部位)

3. 資料

- ・ 経絡コード (1989年WHO標準鍼用語)
- ・ 経穴コード記号 (1989年WHO標準鍼用語)
- ・ 古典テキスト (『鍼灸甲乙経』等)
- ・ 経穴図版 (『経穴彙解』等)
- ・ IME辞書 (WHO経穴コード入り)



・リンク集 (WHO伝統医学関連資料)

これからのこと

今まで『医道の日本』誌上、全日本鍼灸学会学術大会、ならびに『全日本鍼灸学会雑誌』などの場で、断片的にしか361穴の草案が紹介できていませんでした。今後はホームページ上で、その全貌を紹介していく考えています。

あわせて、作業部会が検討の際に使った文献資料 (『鍼灸甲乙経』、『銅人腧穴鍼灸図経』、『外台秘要』、『備急千金要方』等のテキスト)、画像資料 (『十四経發揮』、『経穴彙解』等のデジタル資料)、その他、海外文献資料など、ありとあらゆる資料を公開していく考えています。

そして、今後は「英語バージョン」のホームページ掲載も視野に入れています。世界120カ国で使われている鍼灸の、もっとも基礎となる標準経穴部位は今後の最重要課題です。欧米各国

の鍼灸師のためにも、広く宣伝していく予定です。

最後に

作った物は使われて初めてその真価を発揮します。金科玉条として神棚に飾っておいても何の役にも立ちません。ホームページには「掲示板」を設けています。ぜひご意見をお寄せ下さい。要望に応えられるように作業部会一同、さらなる努力をいたしますのでご協力下さい。

最後に、ホームページ資料には「第二次日本経穴委員会便り」「会議報告」など多数の『医道の日本』記事を掲載しています。資料の公開を許可して頂きました医道の日本社には、心より感謝申し上げます。

(〒356-0031 埼玉県ふじみ野市福岡中央1-6-2)